



株式会社キュア・アップ

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町 1-3 7 階

代表取締役 CEO 兼医師 佐竹晃太

2016年6月8日

報道関係各位

—禁煙挑戦者と禁煙希望者を対象にした禁煙治療実態調査を実施—

株式会社キュア・アップ（本社：東京都中央区、代表取締役 CEO 兼医師 佐竹晃太、以下、キュアアップ）は、禁煙挑戦者 160 名、並びに禁煙希望者 515 名を対象に Web アンケート調査を実施いたしました。

厚生労働省の「厚労科研費平成 25 年度報告書」では、「がん対策基本計画」および「健康日本 21（第 2 次）」において、2020 年までに成人の喫煙率を 12%にする目標を掲げています。厚生労働省が 2015 年 12 月 9 日に発表した「平成 26 年国民健康・栄養調査結果の概要」によれば、直近 2014 年において成人男性の喫煙率は 32.2%、女性喫煙率は 8.5%と、特に男性において目標とする喫煙率を大きく上回っている状況です。

一方、「喫煙に関する 47 都道府県追跡調査 2013」（ファイザー株式会社発表）によれば、2013 年の 1 年間で禁煙に挑戦した方のうち、27.9%しか禁煙を継続できておらず、禁煙治療に有効な禁煙外来やニコチン製剤などの医学的治療手段やツールの利用率も低いことが報告されています。

そこで、本調査では、禁煙挑戦者※1、および禁煙希望者※2 の治療実態、特に禁煙外来の利用目的や、利用しない理由を把握することによって、今後、どのような医学的治療やツールが必要なのかを明らかにすることを目的に、アンケート調査を行いました。

※1：現在、禁煙に取り組んでいる、もしくは禁煙治療中の方

※2：今後、すぐにでも禁煙に挑戦したいと考えている方

1. 調査概要「禁煙挑戦者と禁煙希望者を対象にした禁煙治療実態調査」

- 調査目的：禁煙治療の実態を明らかにする
- 調査対象/地域：禁煙希望者および禁煙挑戦者/全国
- 調査手法：インターネット調査（実査は株式会社楽天リサーチに委託）
- 有効回答数：756 名（禁煙希望者 515 名、禁煙挑戦者 160 名）
- 調査時期：2016 年 2 月

2. 対象患者さんの背景：

現在禁煙に挑戦する前の継続的な禁煙期間（単位：年） *現在禁煙に挑戦している者 160 名のみ

	値
全体	160
平均値	18.42
最小値	10.00
最大値	45.00

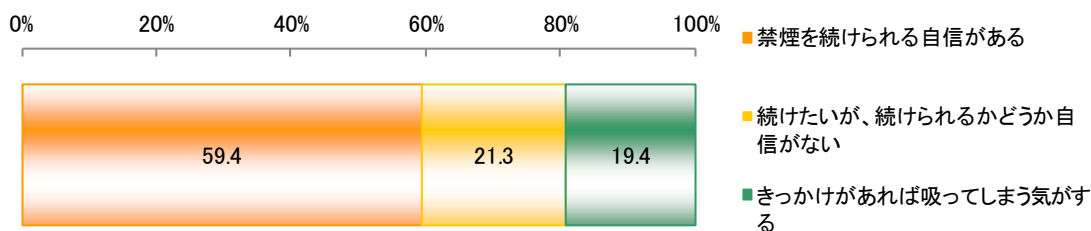
これまでの禁煙挑戦回数（単位：回）

	値
全体	675
平均値	4.02
最小値	1.00
最大値	57.00

1日あたりのたばこ喫煙本数（単位：本／日）

	値
全体	675
平均値	11.32
最小値	0.00
最大値	80.00

禁煙継続に対する現時点での自信



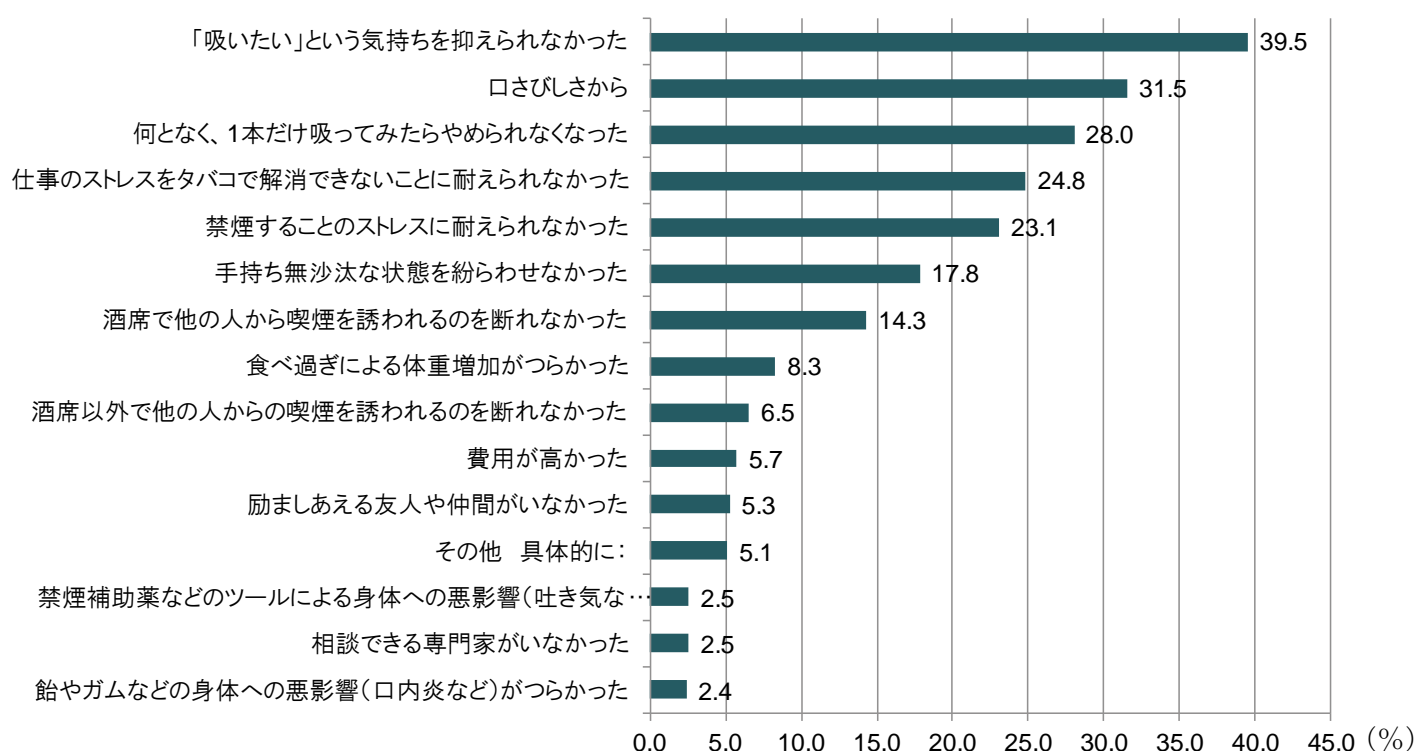
3. 主な調査結果

主な調査結果は以下の通りです。

(1) 禁煙外来やニコチン製剤は、禁煙失敗の原因となる各種症状に対して効果を示す

過去、禁煙に挑戦したが、継続できなかつた原因として回答数が多かったものとしては、『吸いたい』という気持ちを抑えられなかつた(39.5%)、「口寂しさから」(31.5%)、「仕事によるストレスをタバコで解消できないことに耐えられなかつた」(24.8%)、「禁煙することのストレスに耐えられなかつた」(23.1%)が多かつた。

Q.あなたがこれまでに禁煙に挑戦したものの、継続できなかつた原因にあてはまるものを全てお選びください。(いくつでも)

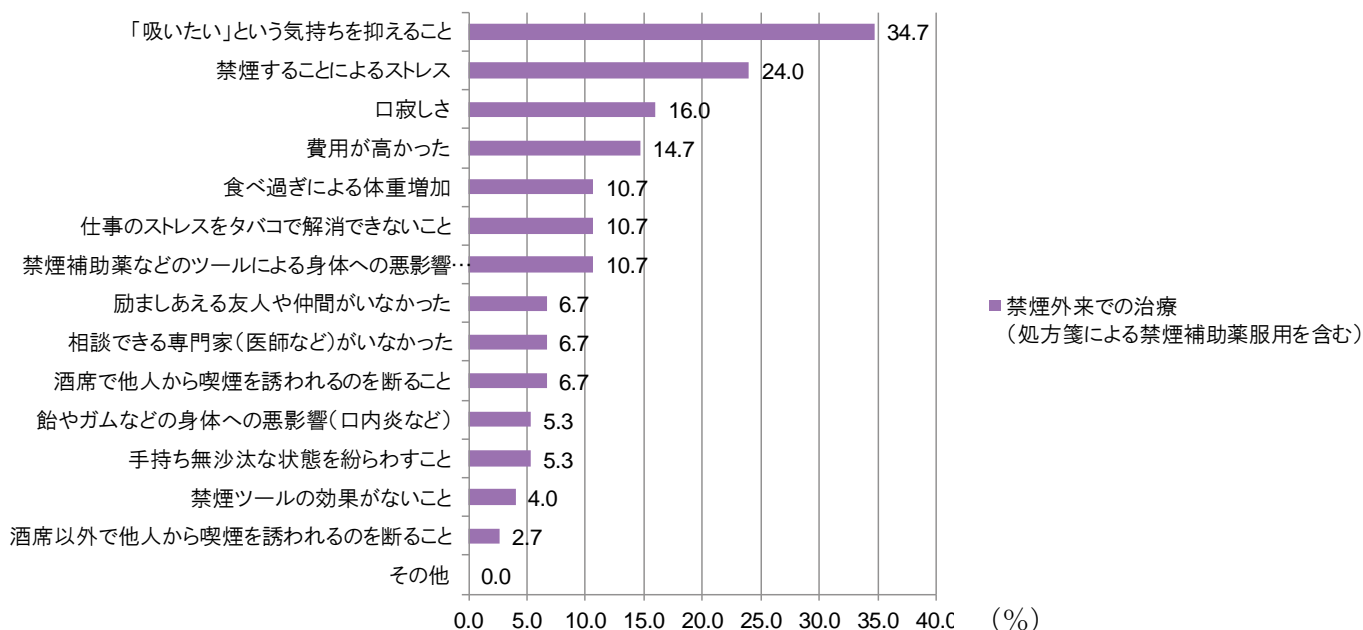


一方、“禁煙中につかつたこと”のうち、禁煙外来によって解消できたものとしては、『吸いたい』という気持ちを抑えること(34.7%)、「禁煙することによるストレス」(24.0%)、ニコチン製剤(ガム)によって解消できたものとしては、「口寂しさ」(32.7%)、『吸いたい』という気持ちを抑えること(23.4%)であつた。

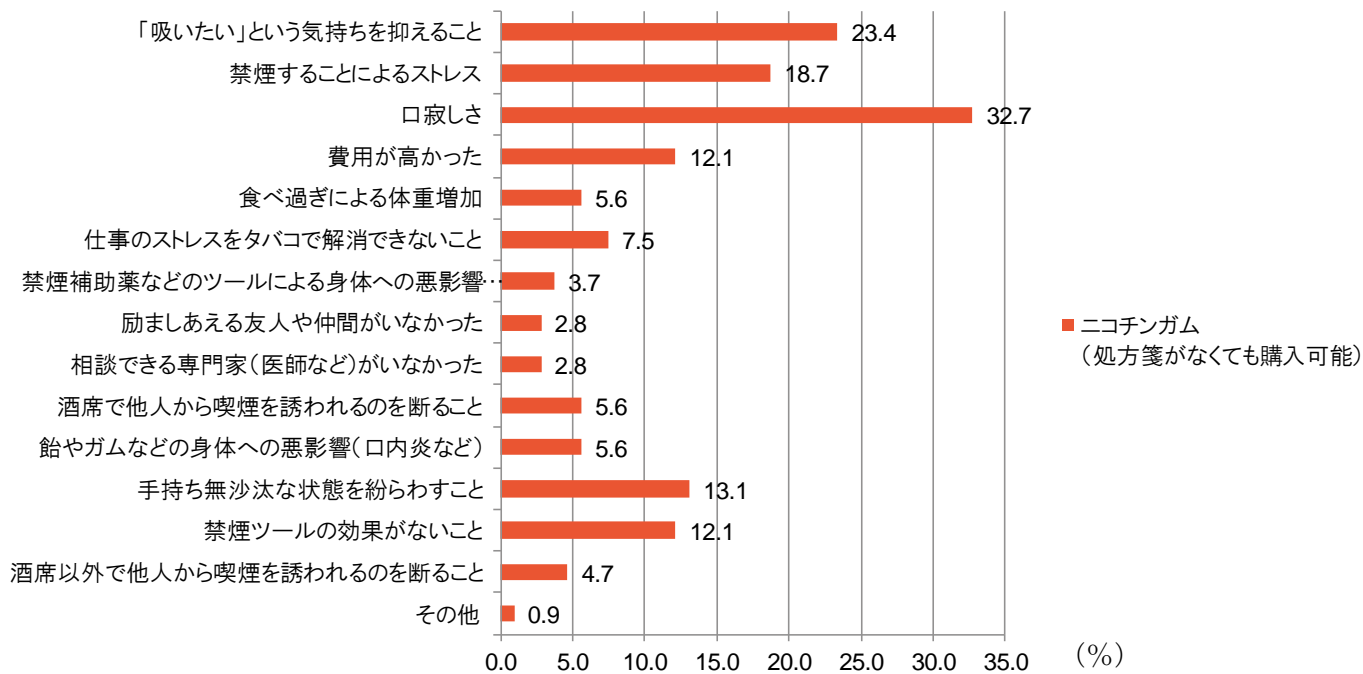
このことから、禁煙外来やニコチン製剤は禁煙を失敗する要因を解消できる有効な手段であると考えられる。

Q.禁煙したときに試したツールによって、「禁煙期間中につらかったこと」のどの部分が解消されましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

禁煙外来での治療 (処方箋による禁煙補助薬服用を含む)



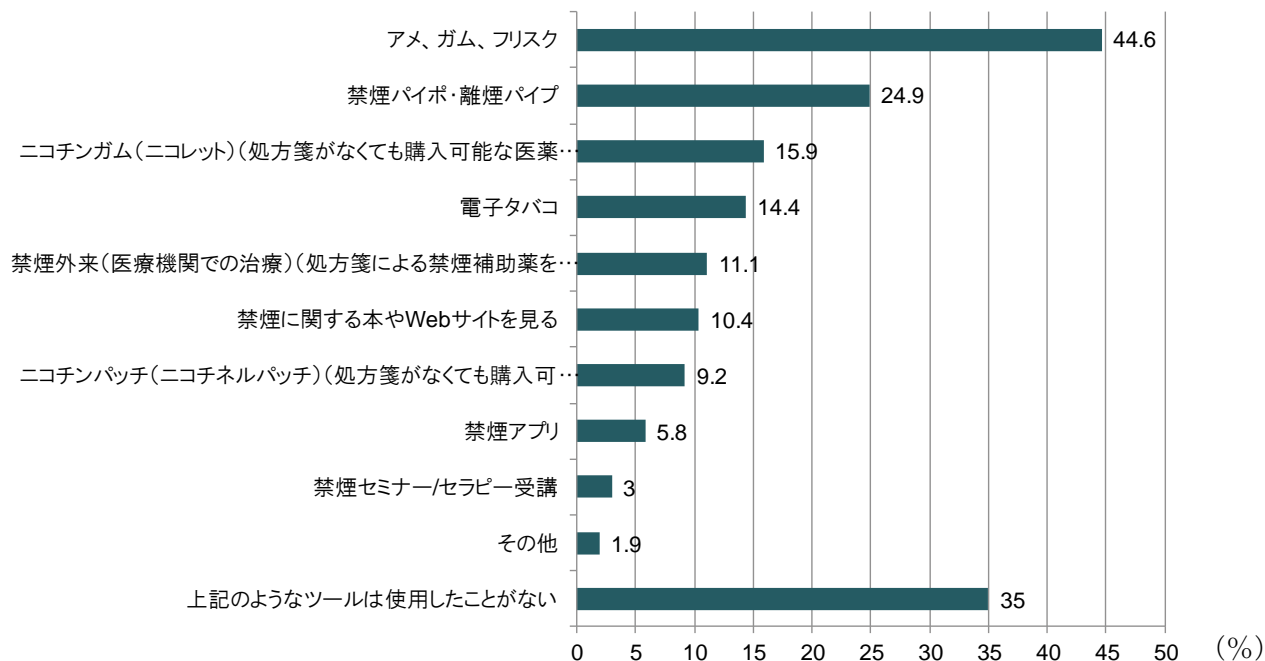
ニコチンガム (処方箋がなくても購入可能)



(2) 禁煙外来やニコチン製剤など、医学的な治療やツールの使用率は依然として低く、特に禁煙外来を利用しない理由としては、通院の面倒さやコスト、通院時間の無さが主な理由であった。

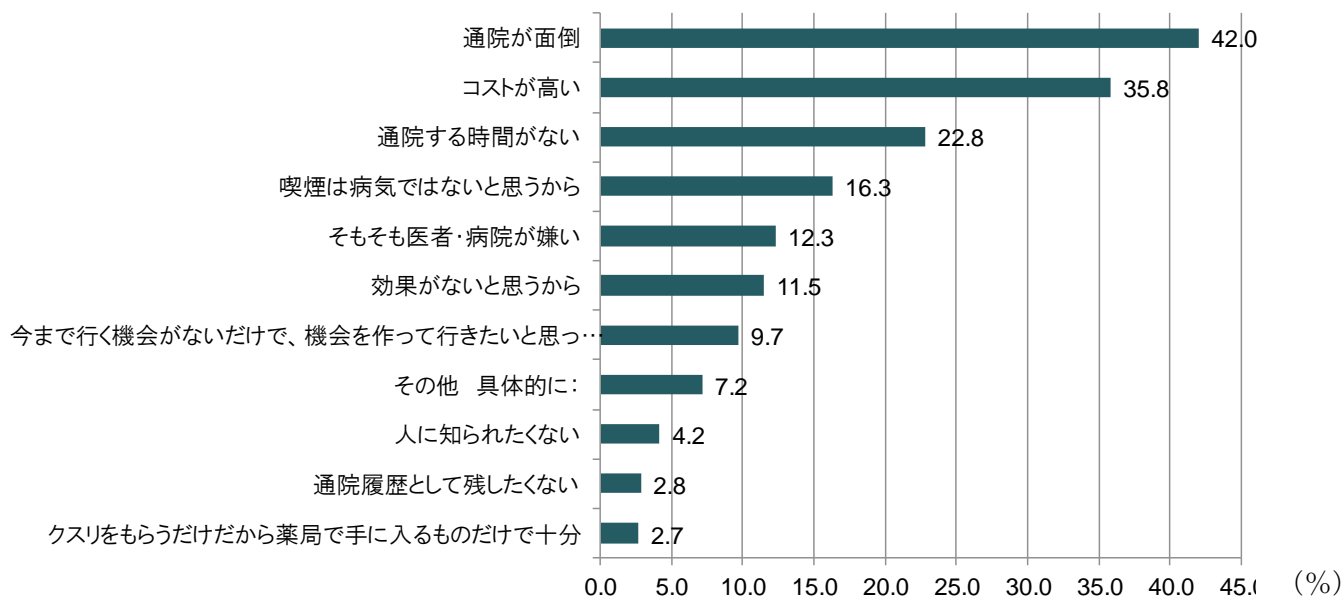
禁煙した時に試したことがある方法としては、「飴・ガム・フリスク」(44.6%)が最も多く、次いで「禁煙パイポ・離煙パイプ」(24.9%)が多かった。一方、「ニコチンガム」(15.9%)、「禁煙外来」(11.1%)、「ニコチンパッチ」(9.2%)の医学的な禁煙治療・禁煙ツールの利用率は少なかった。

Q.あなたが禁煙したときに、今までに試したことがある方法をお選びください。



また、禁煙外来を利用しない理由としては、「通院が面倒」(42.0%)、「コストが高い」(35.8%)、「通院する時間がない」(22.8%)が多かった。

Q.あなたは現在のところ「禁煙外来」を利用していませんが、その理由にあてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

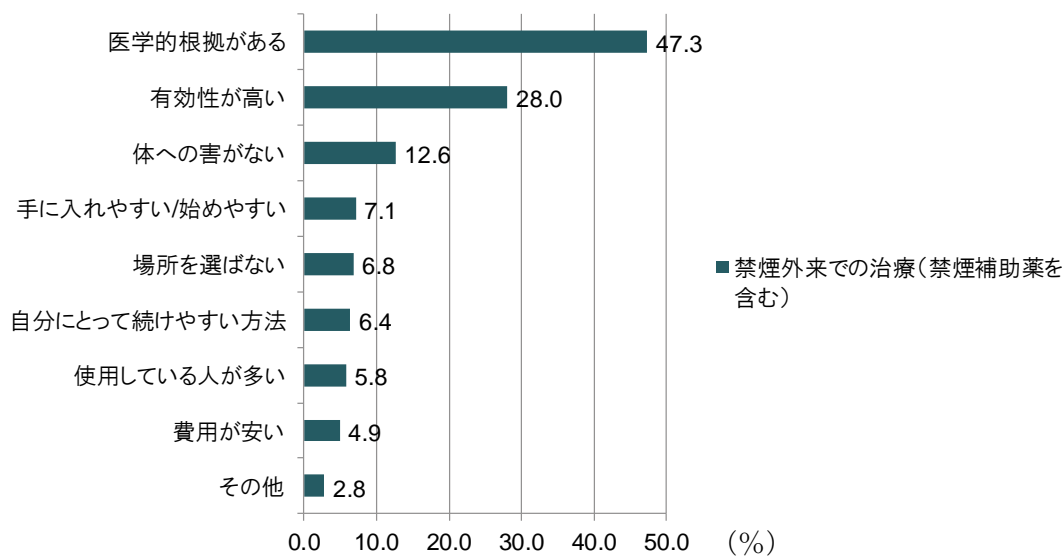


(3) 禁煙者にとって、禁煙外来のメリットは高い禁煙治療効果である一方で、アクセスの良さや手軽さが課題であることがわかった。また禁煙外来受診のきっかけとしては、情報やCMに次いで、家族や友人からの勧めが多く、今後、医学的治療手段やツールの更なる普及のためには、禁煙挑戦者や希望者に加えて、家族への更なる啓発が必要であることが分かった。

禁煙外来のメリットとしては、「医学的根拠がある」(47.3%)、「有効性が高い」(28.0%)が多く、治療効果の高さをメリットに感じていることが分かった。一方で、「手に入れやすい」(7.1%)、「場所を選ばない」(6.8%)、「続けやすい」(6.4%)などはメリットと感じる割合が少なかった。

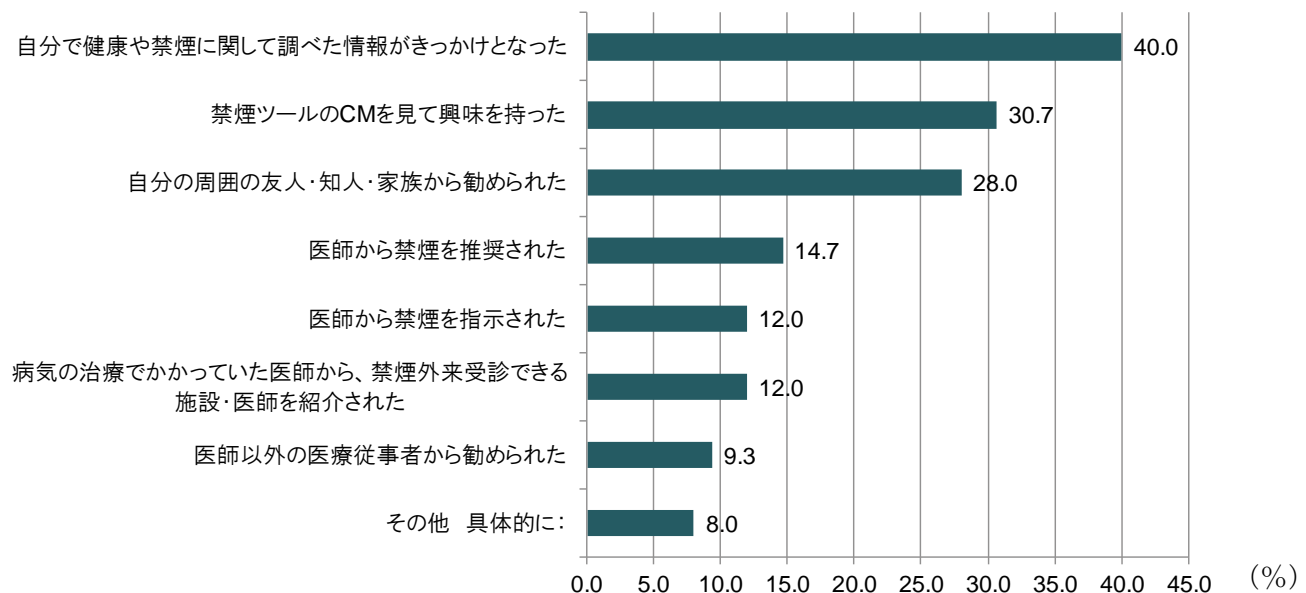
Q.下記の禁煙ツールについて、「メリット」と思うことをすべてお選びください。

禁煙外来での治療(禁煙補助薬を含む)



また、禁煙外来を受診したきっかけとしては、「自分で健康や禁煙に関して調べた情報がきっかけとなった」(40.0%)、「禁煙ツールのCMを見て興味を持った」(30.7%)、「自分の周囲の友人・知人・家族から勧められた」(28.0%)であった。

Q.あなたが「禁煙外来」を受診したきっかけであてはまるものを次の中からお選びください。(いくつでも)



4. まとめ・考察

本調査結果から、禁煙外来やニコチン製剤などの医学的治療手段やツールは、禁煙挑戦者の禁煙失敗原因に有効であることが示唆されましたが、一方で、医学的治療手段やツールを使用しない原因としては、通院の面倒さや時間的理由、コスト等が挙げられました。このことから、今後、禁煙治療に有効なツールとして、医学的根拠に基づき、かつ利用者にとってアクセス性の高い（利用しやすい）治療手段や治療ツールが望まれます。また、禁煙治療に有効な手段である禁煙外来の更なる利用促進のために、禁煙挑戦者および、その家族等に向けて、メディアを通じた更なる啓発が望まれます。

以上

株式会社キュアアップについて

株式会社キュアアップは、弊社は、「治療アプリ」という診療現場における新しい疾患治療ツールを開発しているプログラム医療機器ベンチャー企業で、日本初で臨床応用及び事業化すべく、治療アプリ事業を進めています。詳細はホームページをご覧ください。

<http://cureapp.co.jp/>

株式会社キュアアップの治療アプリ事業について

私が、この事業を思いついたのは、米国の大学院で医療インフォマティクスについて研究する中で出会ったとある論文がきっかけでした。その論文は、スマートフォンを活用したモバイル介入が疾患に対して治療効果を持つということを示したもので、初めて読んだときは自分の体に衝撃が走ったことを覚えています。そして、今はこのイノベーションシーズは日本初で臨床応用及び事業化すべく、治療アプリ事業を進めています。

また弊社のサービスは、医薬品や医療機器と比べて極めて高い費用対効果を持ちながら疾患を治癒させるだけでなく、さらに世界中どこであっても均一に高い質の医療サービスを提供することもできることから、高騰する医療費や医療格差などの日本が抱える医療問題を解決するサービスであると考えており、私たちの活動は社会的な意義を大きく持つと信じています。